

特定網室利用案内

(ver. 3, Sep. 2013)

筑波大学の施設で遺伝子組換え実験をおこなう際には、学内者を実験代表者とした組換え DNA 実験申請を学内委員会におこない、実験承認を実験開始前に得る必要があります。そのため利用にあたっては、本学内の受入教員を決め、実験申請に関する情報提供を受けるとともに、実験植物の栽培、管理、掛かる消耗品等について合意を得て頂きます。

仕様（予定）

7.2M x 15.750M (7.2M x 7.875M が 2 室)

7.2M x 23.625M (7.2M x 7.875M が 3 室)

部屋毎に暖房機配備

利用の流れ

- ① 事前打ち合わせ
- ② 申請書の提出、審査
- ③ 採択の連絡、日程調整
- ④ 実験打合せ
- ⑤ 組換え DNA 実験申請書作成
- ⑥ 実験承認後、組換え体の譲渡手続き
- ⑦ 栽培試験開始

利用する上での注意点

利用の形態としては受入教員との共同研究を原則と致しますが、実験植物の栽培、管理を利用者側に一任する施設利用の形態も可能となります。共同研究の場合、受入教員が本学に対し組換え DNA 実験を申請する実験責任者となり研究全体を申請者と協調して実施します（当方より紹介致します）。一方、施設利用の場合、実験植物の栽培、管理者を派遣して頂くことになります。また、組換え DNA 実験責任者を本学内の教員に依頼して頂きます。組換え体の管理、法令遵守につきましては、遺伝子実験センター、及び、実験責任者の指示に従って頂きます。違反が想定される場合には実験の継続が不可能となる場合がございます。

支援担当者への申し込みから 2 週間程度で本学教員より連絡を致します。当該実験を受け入れ可能な教員がいる場合は共同研究、いない場合は施設利用となります。共同研究の条件を受入教員とご協議頂き（施設利用の可否を含め）、合意頂いた後、利用申請書を事務局に提出して頂き、利用が可能となります。なお、特定網室栽培では組換え体作成に用いたアグロバクテリウムが完全に除かれている必要があります。DNA 実験申請にあたって、

各実験系統について、アグロバクテリウム残存性試験結果が必要なデータとなります。

組換え DNA 実験申請に必要な情報、データ等を受入教員にお送り頂き、学内の実験責任者として実験申請を致します。申請から2ヶ月程度で承認が得られます実験の開始にあたっては、組換え生物の譲与ルールに従った情報交換を経た後、組換え体の移送がおこなわれ、実験が開始されます。利用申し込みから実験開始まで半年程度の時間を要することをご理解ください。

費用負担

共同研究となる場合、受入教員とご協議ください。施設利用となる場合、利用状況に応じ課金します。利用者の旅費・宿泊費等（学内宿泊施設あり）は原則として利用者をご負担ください。

Authorship

共同研究として実施する場合、事前に受入教員とご協議ください。施設利用の場合、実験責任者となる教員を必ず共同研究者として共著者に加えて頂くようお願い致します。また、Acknowledgements 等に以下の内容を記載されるようお願い致します。

（例）This research was supported by Japan Advanced Plant Science Network.

支援担当者 連絡先

kikuike@gene.tsukuba.ac.jp 菊池 彰

（筑波大学 遺伝子実験センター 准教授）